

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	集中（後）	曜日・校時	時間割外																				
開講期間																							
必修選択	選択	単位数	2.0																				
時間割コード	20140587030101	科目番号	05870301																				
授業科目名	●ことばと文化II(数と表現)																						
編集担当教員	宇田 廣文																						
授業担当教員名(科目責任者)	宇田 廣文																						
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇田 廣文																						
科目分類	全学モジュールII科目																						
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																				
教室																							
対象学生（クラス等）	医学部、歯学部、工学部、環境科学部																						
担当教員Eメールアドレス	khiraoka@nagasaki-u.ac.jp																						
担当教員研究室	教育学部3F 313																						
担当教員TEL	095-819-2323																						
担当教員オフィスアワー	金曜日3限																						
授業の概要及び位置づけ	数は文化の重要な構成要素であることを、その歴史等を通じて理解する。また、数学的な考え方は多様であり有用であることを、生活の様々な場面で活用されており、これらを数学的な視点から学ぶ。																						
授業到達目標	数の表記とその歴史、数の表現のよさについて、文化的視点に立って理解することができる。自然界にあるものを数を使って考察したり、円や正方形などの図形を数で考察し、そのよさを理解することができる。 数や数列、分数などのよさやその意味についてり米することができる。 身の回りにある数を取り上げ数学をことばとして用いるよさを理解することができる。																						
授業方法（学習指導法）	講義を中心に行う。授業内容により演習や課題を課す。毎回出席カードで授業理解や質問などの記述を行う。																						
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>数の歴史</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>数と形</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>数とパターン</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>整数の性質</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ピタゴラス数</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>フィボナッチ数列</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>正多面体の数理</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>折り紙と数学</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	ガイダンス	2	数の歴史	3	数と形	4	数とパターン	5	整数の性質	6	ピタゴラス数	7	フィボナッチ数列	8	正多面体の数理	9	折り紙と数学
回	内容																						
1	ガイダンス																						
2	数の歴史																						
3	数と形																						
4	数とパターン																						
5	整数の性質																						
6	ピタゴラス数																						
7	フィボナッチ数列																						
8	正多面体の数理																						
9	折り紙と数学																						

	10	円の数理
	11	単位分数と連分数
	12	和算と算額
	13	算数に挑戦
	14	魔方陣
	15	日常にある数理
	16	試験
キーワード	数の起源、数の活用、数と生活	
教科書・教材・参考書	配布資料を中心に授業を行う。 参考資料・文献は適宜紹介をする。	
成績評価の方法・基準等	試験60点、課題20点、出席カード20点とし、合計60点以上を合格とする。	
受講要件（履修条件）	高校の数学Ⅰ・AおよびⅡ・Bを履修していることが望ましい。数や数学に興味・関心を持ち、授業中にしっかり考えることが必要である。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	数に興味関心を持ち、課題や演習に積極的に取り組むこと、授業では集中して考えることが大切である。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587030501	科目番号	05870305
授業科目名	●ことばと文化II(音楽と表現)		
編集担当教員	西田 治		
授業担当教員名(科目責任者)	西田 治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西田 治		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]11講義室		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	osamu-n@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館516		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	昼休み(事前にメールにてアポイントを取る)		
授業の概要及び位置づけ	音および音楽の表現力・影響力について体験的に理解し、それについて自らの言葉で語ったり書いたりすることができる。また、それを他者に伝え共有することができる。		
授業到達目標	音および音楽の表現力・影響力について体験的に理解し、それについて言葉で語ったり書いたりすることができる。 自らの体験や考えを分かりやすく相手に伝えることができる。		
授業方法(学習指導法)	ディスカッション フィールドワーク 講義 プレゼンテーション ドラミングなど		
	音の風景(サウンドスケープ)について体験的に理解する活動を行う。音楽以前の音そのもの、そして沈黙に焦点を当て、私たちがいかにそれらから影響を受けているかを体験的に理解する。 最終的には、受講生全員で長崎のいい音の風景を選定し、冊子としてまとめ、大学外に対して発信することを目指す。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション グループ分け	
	2	ドラムサークル1 音と沈黙の体験	

授業内容		そしてその言語化
	3	ドラムサークル2 音と沈黙の体験 そしてその言語化
	4	サウンドスケープとは 長崎いい音の風景20選 紹介
	5	フィールドワーク1 長崎いい音の風景20選めぐり
	6	フィールドワーク1の振り返りとシェア
	7	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業1 フィールドワーク2 推薦する場の選定
	8	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 フィールドワーク2の振り返りとシェア
	9	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 フィールドワーク3 推薦する場の選定
	10	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 フィールドワーク3の振り返りとシェア
	11	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 仮決定と検討
	12	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 本決定
	13	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 広報活動 冊子の作成
	14	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 広報活動 冊子の配布
	15	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 総括 活動を通しての学び
	16	サウンドスケープデザインとは何か ――音の風景を言葉で語ることの難しさと楽しさ
	キーワード	サウンドスケープ 音の風景
教科書・教材・参考書	<p>参考文献は以下の通り。</p> <p>サウンドスケープ―その思想と実践 鳥越 けい子 (著) 出版社: 鹿島出版会 (1997/03)</p> <p>サウンドスケープの詩学 フィールド篇 鳥越 けい子 (著) 出版社: 春秋社; A5版 (2008/3/25)</p> <p>音さがしの本 <<増補版>> リトル・サウンド・エデュケーション</p>	

	R.マリー シェーファー (著), 今田 匡彦 (著) 出版社: 春秋社; 増補版 (2009/1/15) 世界の調律 サウンドスケープとはなにか (平凡社ライブラリー) R.マリー・シェーファー (著), 鳥越 けい子 (翻訳) 出版社: 平凡社 (2006/5/10)
成績評価の方法・基準等	・レポート・提出物 70パーセント ・出席・講義への参加度 30パーセント
受講要件 (履修条件)	
備考 (URL)	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587030901	科目番号	05870309
授業科目名	●ことばと文化II(多文化理解とことば)		
編集担当教員	川越 明日香		
授業担当教員名(科目責任者)	川越 明日香		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川越 明日香, 楊 暁安, 劉 卿美, ベー シュウキー, 橋本 健夫		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	kawagoe@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部254-1号室		
担当教員TEL	095-819-2773		
担当教員オフィスアワー	事前にメールや電話でアポイントを取って来室のこと。		
授業の概要及び位置づけ	国際社会で活躍する人にとって多文化理解能力は必須である。本授業においては、中国・韓国・マレーシアの文化を取り上げ、その特徴を理解するとともに、相互理解を深める方法について考える。		
授業到達目標	他国の文化の特徴を理解するとともに、共生のための相互理解のあり方を考える力を身につける。		
授業方法(学習指導法)	受講生一人一人が、中国・韓国・マレーシアを身近なものとして感じることができるよう、予め各国を調べ、疑問点を抽出する。それらを各国出身の教員が取り上げ答えるとともに、各国の文化を紹介し、理解を深める工夫を行って授業を進める。		
授業内容	回	内容	
	1	本授業がどのように展開されるかについてのオリエンテーション(全教員参加)	
	2	「私とマレーシア」(マレーシアについて調べたことをもとに各班で知りたいことをまとめる)(担当:橋本教員)	
	3	マレーシアの文化(担当:ベー教員)	
	4	マレーシアの教育(担当:ベー教員)	
	5	マレーシアとの相互理解(各班からの意見をもとに理解を深める)(担当:ベー教員)	
	6	「私と中国」(中国について調べたことをもとに各班での疑問点をまとめる)(担当:橋本教員)	
	7	中国の諧音語と中国文化(担当:楊教員)	
	8	中国の語順と中国文化(担当:楊教員)	
	9	中国との相互理解(各班からの意見をもとに理解を深める)(担当:楊教員)	
	「私と韓国」(韓国について調べたことをもとに各班での疑問点をまとめる)(担当:		

	10	橋本教員)
	11	韓国の文化とことば① (担当：劉教員)
	12	韓国の文化とことば② (担当：劉教員)
	13	韓国の文化とことば③ (担当：劉教員)
	14	韓国との相互理解 (各班からの意見をもとに理解を深める) (担当：劉教員)
	15	マレーシア, 中国, 韓国のどれか一つを取り上げ, 相互理解の方策を語る。
	16	
キーワード	多文化理解, 相互理解	
教科書・教材・参考書	各国の様子を知らせるDVDや映画	
成績評価の方法・基準等	各教員25点 (予習課題+授業中の活動+定期試験) で採点を行う。 授業に出席した時数が3分の2に達しない場合は、失格。	
受講要件 (履修条件)		
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス (教養教育科目)**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587031301	科目番号	05870313
授業科目名	●ことばと文化II (文字とことば)		
編集担当教員	鈴木 慶子		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 慶子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 慶子, 川越 明日香, 中村 文子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	keiko-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部514研究室		
担当教員TEL	095-819-2302		
担当教員オフィスアワー	月V		
授業の概要及び位置づけ	日本語表現のうち、文字言語によるものの特徴を多角的に吟味し、言語力を深める。		
授業到達目標	1) 自分自身の「文字とことば」力を客観的に認識することができる。(①) 2) 日常文書の特徴を理解し、実際に書くことができる。(③⑤) 3) 文字言語による日本語表現の特徴を俯瞰することができる。(⑪⑫⑬)		
授業方法 (学習指導法)	問題に基づいたグループ学習とその結果の発表 → 質疑応答 → 学習報告書の提出		
授業内容	回	内容	
	1	受講基礎調査 グループ編成	
	2	受講基礎調査をふまえて 「文字とことば」力の自己診断	
	3	ケーススタディ1-1 「手書きと入力」 モデルケースを使った演習	
	4	ケーススタディ1-2 「手書きと入力」 グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)	
	5	ケーススタディ1-3 「手書きと入力」 グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)	
	6	復習	
	7	ケーススタディ2-1 手紙を読む モデルケースを使った演習	
		ケーススタディ2-2 手紙を読む	

	8	グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	9	ケーススタディ2-3 手紙を読む グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	10	復習
	11	ケーススタディ3-1 手紙を書く モデルケースを使った演習
	12	ケーススタディ3-2 手紙を書く グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	13	ケーススタディ3-3 手紙を書く グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	14	復習
	15	文字言語による日常表現の特徴
	16	試験
キーワード	日常生活、文字言語、コミュニケーション	
教科書・教材・参考書	『美しい日本語表現』池田悠子著 双文社 『書字のススメ』石川九揚著 新潮社 『わかりあえないことから』平田オリザ著 講談社現代新書	
成績評価の方法・基準等	3回の欠席で失格。12回以上出席の場合に、下記で評価する。60点以上で合格とする。 プレゼンテーション、質疑応答 [10%] 個人レポート [20%] グループレポート(学習報告書) [40%] 試験 [30%]	
受講要件 (履修条件)	個人で行うこととグループで行うことの両方ができること。	
備考 (URL)		
学生へのメッセージ		



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	集中（前	曜日・校時	時間割外
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587031701	科目番号	05870317
授業科目名	●ことばと文化II(脳とことば)		
編集担当教員	川越 明日香		
授業担当教員名(科目責任者)	川越 明日香		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川越 明日香, 橋本 優花里, 橋本 健夫		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	hasimoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部527号室		
担当教員TEL	095-819-2338,090-2587-5670		
担当教員オフィスアワー	お昼の時間（12：00-12：50）予め在室を確かめてください。		
授業の概要及び位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばの発達について学ぶ ・ことばを制御する脳の構造を学ぶ ・種々の脳の機能不全がことばの産出や理解に及ぼす影響の違いについて知る ・ことばの問題を克服するための手段について学ぶ 		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 言葉の発達について理解できる ② 脳とことばの関係を理解できる。 ③ 脳の機能不全によることばに関連した障害様相について理解できる。 ④ 障害と健常の垣根を越えて、授業で学んだことをよりよいコミュニケーションを目指した実生活に生かすことが出来る。 		
授業方法（学習指導法）	集中講義形式で行います。講義と、講義に関連した実験、グループワークとプレゼンテーション、そしてグループディベート等を随時取り入れていきます。そのため、それぞれの作業に必要な内容を事前に準備することが必須となります。事前の準備の内容については提出を求め、成績評価の対象とします。また、障害様相を把握するため、視覚教材の視聴も行いません。各授業終了時には、質問や感想を書くためのコミュニケーションカードの記入を求めます。コミュニケーションカードは、次回の授業での振り返りや皆さんの授業の理解度の確認に利用します。		
	回	内容	
	1	良い聞き手になるための方法を学ぶ 子どもの発達	
	2	ことばの発達に関するプレゼンテーションの準備	
	3	ことばの発達に関するプレゼンテーション	
	4	プレゼンテーションフィードバック ことばの発達に関するまとめ（DVD視聴）	

授業内容	5	ことばの発達に関する振り返り	
	6	脳に関するプレゼンテーションの準備	
	7	脳に関するプレゼンテーション	
	8	プレゼンテーションフィードバック 脳の進化と発達、脳の特性と構造のまとめ	
	9	脳の進化と発達、脳の特性と構造の振り返り	
	10	脳の損傷がもたらす障害についてのプレゼンテーションの準備	
	11	脳の障害がもたらす障害についてのプレゼンテーション	
	12	プレゼンテーションフィードバック 脳の損傷がもたらす障害についてのまとめ	
	13	脳の損傷がもたらす障害についての振り返り 脳とことばに関する様々なテーマに関するディベートの準備	
	14	ディベートしよう	
	15	脳とことばのまとめ	
	16	試験	
	キーワード	ことば、脳損傷、認知	
	教科書・教材・参考書	教科書は指定しません。講義内容に即した資料を事前に配布します。授業で紹介する障害の様相をより詳しく理解するため、視聴覚教材を利用します。	
	成績評価の方法・基準等	予習による準備物を含む授業時のグループワークやグループディスカッションの成果物（30％）、予習復習を含むクイズ（15％）、コミュニケーションカードの提出を含む、授業への積極的な参加・貢献度（15％）、および定期試験（40％）、から総合的に判断して成績評価を行います。	
	受講要件（履修条件）		
備考（URL）			
学生へのメッセージ			



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールII科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140587031801	科目番号	05870318
授業科目名	●ことばと文化II (ICTとことば)		
編集担当教員	福田 正弘		
授業担当教員名(科目責任者)	福田 正弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福田 正弘, 全 炳徳		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-45(call3)		
対象学生（クラス等）	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	fukuda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部553室		
担当教員TEL	819-2315		
担当教員オフィスアワー	水3		
授業の概要及び位置づけ	ICT機器を制御することばを理解するとともに、ICTを活用したコミュニケーションの重要性を学ぶ。また、IT機器の操作を通して、生活を豊かにするICT活用法を学ぶ。さらにICT活用の倫理も身に付ける。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 社会におけるICTの活用とその制御の仕組み、種々の課題について関心を持ち、主体的に課題解決に向け探求しようとする。 2) ICTを制御している各種言語を理解し、ICT機器を使った表現活動を通してその意味を説明できる。 3) ICTを活用した社会シミュレーションにおいて、協同して意思決定するとともに、社会認識上の意味を考えることができる。 4) ICT機器の操作を通して、目的にあった適切な情報処理ができる 		
授業方法（学習指導法）	基本事項の講義の後、演習課題を提示、個人演習とともにグループワークを採り入れる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 【1部 ICTを支える言語】 2 マッピングプラザを支えるICT言語とIT機器 3 マッピングプラザを支えるICT言語を体験① 4 マッピングプラザを支えるICT言語を体験② 5 マッピングプラザを支えるICT機器を体験① 6 マッピングプラザを支えるICT機器を体験② 7 マイ・マッピングプラザの作成 8 マイ・マッピングプラザの発表・評価 【2部 ICTを用いた意思決定】 9 ガイダンス・課題提示・グルーピング・シミュレーションのデモ 10 シミュレーション1 11 シミュレーション1 続き・シミュレーション結果の分析 12 発表準備・資料作成 		

	13 発表と相互評価・反省 1 14 発表と相互評価・反省 2・まとめ 15 シミュレーション 2 16 試験
キーワード	IT 言語 マッピング シミュレーション
教科書・教材・参考書	適宜、指示する。
成績評価の方法・基準等	1部2部各50%で、合計60%以上が合格。 欠席が1/3以上の場合は失格。 評価の方法・観点 1部2部共に、授業中の学習状況、レポート等の課題の成果物、発表内容と態度、試験を総合的に判断する。グループによる活動については、グループの協力状況も評価の対象とする。
受講要件（履修条件）	特になし。希望者多数の場合は選考になる場合もある。
備考（URL）	
学生へのメッセージ	毎回の課題とグループワークを重視します。頑張ってください。

